

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:67.

レジリエンスに対する看護師の自律性と職務キャリアが及ぼす影響

金 誠治

## レジリエンスに対する看護師の自律性と職務キャリアが及ぼす影響

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション 金 誠治

【目的】 レジリエンスに対して中堅看護師の自律性と職務キャリアが及ぼす影響を明らかにする。

【研究方法】 対象は管理者を除く2年以上の経験を有する看護師。データ収集方法:無記名自記式質問紙を郵送法により回収。データ収集内容:二次元レジリエンス要因尺度(平野, 21項目7下位尺度)、看護師の自律性測定尺度(菊池他, 47項目7下位尺度)、看護師の職務キャリア尺度(石井他, 43項目4下位尺度)、基本属性14項目(性別・年齢・子供の有無・経験年数など)。分析方法:従属変数をレジリエンス、独立変数を基本属性・看護師の自律性・職務キャリアとする重回帰分析を実施。経験年数別比較は一元配置分散分析、多重比較にボンフェローニ法、経験年数群とレジリエンス平均値についてSpearmanの順位相関分析を実施した。IBMSPPSS®ver.20を使用、有意確率5%とした。

【倫理的配慮】 所属施設倫理委員会の承認を受け規定に基づいて実施。

【結果】 協力・同意の得られた看護師1498名へ質問紙を配布。回収率39.2%、有効回答数574名(有効回答率97.7%)、平均年齢 $37.0 \pm 9.7$ 歳、看護師経験年数 $14.1 \pm 9.2$ 年。経験年数別の二次元レジリエンス要因尺度の合計点2~10年 $68.0 \pm 9.7$ 、11~20年 $71.9 \pm 8.6$ 、21年以上 $72.3 \pm 10.4$ 。各群の比較分析では、2年~10年は他の二群より有意に低く、11~20年と21年以上の間に有意差はなかった。レジリエンスと各群の平均値を相関分析した結果、2~20年の群で中程度の相関関係がみられた( $r = 0.657$ 、 $P < 0.01$ )。重回帰分析の結果、レジリエンスに影響する要因として自律性尺度合計点・職務キャリア尺度合計点・基本属性の子供・専門関心領域・職場満足・メンター・経験年数が挙げられた( $R^2 = 0.406$ 、 $\beta = -0.119 \sim 0.328$ )。各変数の下位尺度も加えた分析では、レジリエンスの統御力以外すべてに自律性の『認知能力』、レジリエンスの行動力以外すべてに職務キャリアの『対人関係の形成と調整』が影響要因として挙げられた。

【考察・結論】 各群のレジリエンスの平均値の比較から、2~10年は11年以降の二群より有意に低いが、11年以降の二群間には有意差はないことからプラトー現象の可能性が示唆された。一方、2~20年群ではレジリエンスと経験年数は中程度の相関関係にあることから、経験年数20年程度まではレジリエンスが緩やかに成長する可能性があり、長期的キャリア支援の必要性があると考えられる。重回帰分析の結果、自律性・職務キャリア尺度合計点がレジリエンスの影響要因として挙げられ、下位尺度の分析では自律性の「認知能力」、職務キャリアの「対人関係の形成と調整」が影響要因として挙げており、この二つがレジリエンスに大きく影響を及ぼしていると考えられる。